

記載例

農地所有適格法人報告書

和泊町農業委員会会長 様

住所、会社名、代表者名
電話番号

令和 年 月 日

主たる事務所の所在地

名称及び代表者氏名

電話番号

押
印

印

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

単位に注意(ha)

記

1 法人の概要

法人の名称及び代表者氏名	(例) (株) ○○ 代表○○	
主たる事務所の所在地	(例) 和泊町○○ ○○番地	
経営面積 (ha)	田	
	畑	(例) 3
	採草放牧地	
法人形態	(例) 株式会社 , 有限会社 など	

2 農地法第2条第3項第1号関係

(1) 事業の種類

農 業		左記農業に該当しない事業の内容
生産する農畜産物	関連事業等の内容	
(例) さとうきび・ジャガイモ	(例) 農産物加工と販売	

農業以外の事業がない場合は記入不要

(2) 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
3年前(実績)	(例) 32,000千円	
2年前(実績)	(例) 32,000千円	
1年前(実績)	今回の実績	
申請日の属する年 (実績又は見込み)	これから一年間の見込	

農地法第2条第3項第2号関係

構成員全ての状況（組合員名簿又は株主名簿
措置法に基づく承認会社が構成員である場合には、当該
議決権を記載したもの）を添付してください。）

- (1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者
業協同組合、投資円滑化法に基づく承認

要件3 議決権要件

①～⑥に当てはまる構成員が議決権の過半か確認します。

- ①法人に農地を提供した個人
- ②法人の農業常時従事者
- ③法人に基幹的な農作業を委託した個人
- ④中間管理機構または農協を通じて法人に農地を貸し付けている個人
- ⑤農地中間管理機構、農協など
- ⑥農業法人投資育成事業を行う承認会社（投資円滑化法第10条条

氏名又は名称	議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				
		農地等の提供面積(m ²)		農業への年間従事日数		農作業委託の内容
		権利の種類	面積	直近実績	見込み	
(例) 和泊 太郎	(例) 40口	(例) 賃借権	(例) 32,000	(例) 250日	(例) 250日	
(例) 和泊 一郎	(例) 40口			250日	250日	

(記載要領)

「農業への年間従事日数」には、その法人が農業(労務管理や市場開拓等も含みます。)を行う期間のうちその者が当該事業に参画・関与している日数を記載してください。

議決権の数の合計

(例) 80口

(例) 合計 100%

農業関係者の議決権の割合

(例) 80%

その法人が農業(労務管理や市場開拓等も含みます。)を行う期間：年12か月

- (2) 関連事業者（法人から物資の供給又は役務の提供を受けている者等）

氏名又は名称	議決権の数	取引関係等の内容(法人との連携について農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合は、法律の名称、当該認定を受けた年月日、認定計画の期間満了日及び取引関係等の内容)
(例) 株式会社〇〇	(例) 20口	該当する場合は記入

議決権の数の合計

(例) 20口

関連事業者の議決権の割合

(例) 20%

(留意事項)

- 1 関連事業者がいる場合には、その法人とその構成員との間で締結された契約書の写し等その構成員が関連事業者であることを証する書面を添付してください。

- 2 「農商工連携法等の法律に基づく認定」は、食品流通構造改善促進法（平成3年法律第59号）、中小企業者と農林漁業者との連携による事業活動の促進に関する法律（平成20年法律第38号）、農林漁業有機物資源のバイオ燃料の原材料としての利用の促進に関する法律（平成20年法律第45号）、米穀の新用途への利用の促進に関する法律（平成21年法律第25号）のいずれかに基づく認定です。
- 3 「農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合」には、いずれかの認定を受けたことを証する書面の写しを添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号及び第4号関係

(1) 理事、取締役又は業務を執行する役員全ての農業(労務管理や市場開拓等も含む。)への従事状況

氏名	住所	役職	農業への年間従事日数			
			直近実績		必要な農作業への年間従事日数	
			直近実績	見込み	直近実績	見込み
(例) 和泊太郎	和泊町〇〇〇〇番地	代表取締役	(例) 250日	(例) 250日	(例) 250日	(例) 250日
(例) 和泊一郎	和泊町〇〇〇〇番地	取締役	250日	250日	250日	250日

(記載要領)

「農業への年間従事状況」には、その法人が農業(労務管理や市場開拓等も含みます。)を行う期間のうちその者が当該事業に参画・関与している日数及び必要な農作業への年間従事日数を記載してください。

月数を記入

その法人が農業(労務管理や市場開拓等も含みます。)を行う期間：年12か月

(2) 「必要な農作業への年間従事日数」が記載された理事、取締役又は業務を執行する役員の農作業への従事状況

(該当する期間を役員等ごとに、直近実績は「 \longleftrightarrow 」、見込は「 $\leftarrow \cdots \rightarrow$ 」で示してください。)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間	\leftarrow											\rightarrow
その者が農作業に常時従事する期間	\leftarrow											\rightarrow
				代表取締役	和泊	太郎						
				取締役	和泊	一郎						

(「農作業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業(耕うん、播種、施肥、刈取り等)にいつでも従事できる状態にあることです。)

(3) 重要な使用人の農業への従事状況

氏名	住所	役職	農業への年間従事日数			
					必要な農作業への年間従事日数	
			直近実績	見込み	直近実績	見込み

((3)については、(1)の理事等のうち、法人の農業に常時従事する者（原則年間150日以上）であって、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第8条に定める日数（原則年間60日）以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。)

理事等が年間 60 日以上農作業に従事していない場合で、その他の農業に責任のある使用人がいる場合は記入

(記載要領)

- 「2 (1) 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。
- 「2 (1) 事業の種類」の「関連事業等」とは、
 - 耕作又は養畜の事業に関連する次に掲げる事業
 - 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
 - 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
 - 農業生産に必要な資材の製造
 - 農作業の受託
 - 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
 - 農業と併せ行う林業
 - 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業です。
- 「2 (2) 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。
- 「3 (1) 農業関係者」は、農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成14年法律第52号）第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。
複数の承認会社が構成員となっている法人にあっては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 「3 (2) 関連事業者」の「取引関係等の内容」欄には、例えば、「法人から生産物を購入している食品会社」、「法人に肥料を販売する肥料会社」、「法人と特許権の専用実施権の設定を行っている種苗会社」等と記載してください。
- 法人の代表者の氏名の記載を自署する場合においては、押印を省略することができます。